

# 釧路管内における性選別精液の現状と課題

(釧路家畜人工授精師協会 技術研究部会)

はじめに

性選別精液は乳牛の後継牛確保において有効な手段とされ、使用され始めた当初に比べ使用本数が増えてきています。しかし、その受胎性は販売各社の説明でも一般精液と比べ約10%低下するといわれています。そこで、実際どれほどの受胎性であるかを把握するため、釧路管内における性選別精液の受胎性について調査しました。

平成24年1月1日から平成24年12月31日までに、釧路管内J A及び共済組合所属の授精師により人工授精が行われた、乳牛4万6405頭を対象に一般精液と性選別精液について初回受胎率を比較しました。

経産牛では図1のように、性選別精液は一般精液より1〜2月を除き年間を通して低く、5〜6月では特に低い受胎率となりました。

未経産牛では図2のように、性選別精液は一般精液より年間を通して低く、6〜9月では特に低い受胎率となりました。

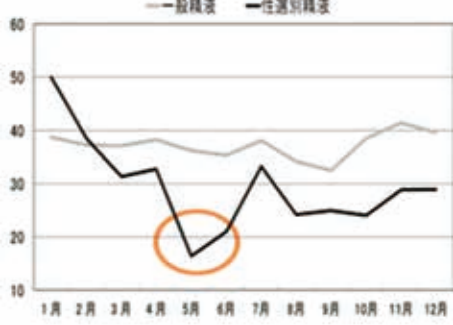


図1：経産牛における初回受胎率

また、経産牛に比べ未経産牛の方が性選別精液の受胎率の低下割合が大きく、特に夏季は大幅に低下することが確認されました。夏季の受胎率低下の原因として暑熱ストレスによる影響も考えられますが、一般精液では性選別精液ほど受胎率は大きく低下せずから暑熱ストレス以外の影響があるのではと考え、釧路管

## 釧路管内の現状

内J A及び共済組合所属の授精師に性選別精液に関するアンケート調査を実施しました。

まず、性選別精液を使用する際に授精師が重要視していることを経験年数別に調査しました。経験年数にかかわらず図3のように、スタンディング発情(乗駕許容)、卵胞の状態、子宮の反応等の鮮明な発情徴候を示す牛への利用が心がけられているが、畜主希望による性選別精液の利用も行われていることが分かりました。

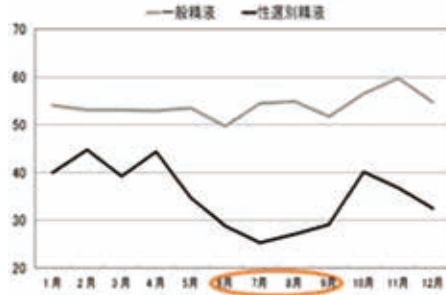


図2：未経産牛における初回受胎率

次に、性選別精液の利用を最終的に判断するのは主に誰なのかを調査しました。その結果、庭先授精では授精師にその判断が任せられることが多く、なかでも経験年数が長いほどその傾向があり、ベテラン授精師ほど畜主との信頼関係が築けていると考えられました。一方で、公共牧野においては経験年数に関わらず牧場職員に判断が任せられる傾向がありました。

## これからの課題

本来、性選別精液は良好な発情時に使用するべきですが、夏季に未経産牛を授精する機会が多い公共牧野では、入牧時に畜主より交配精液が指定されていることが多く、雌牛の発情状態に合わせて精液を選ぶことができない状況もあります。このことが未経産牛の夏季の性選別精液が低受胎率になる一因と考えられることから、受胎率の向上には発情の状況に合わせ、利用する精液の選択の幅を広げるなど柔軟な対応が必要だと思えます。

また、庭先授精でも今以上に授精師と畜主のコミュニケーションを図り、良好な発情の雌牛に対して授精することが受胎率向上につながると思われま

す。性選別精液を上手に利用し、計画的に後継牛を確保しましょう。

(虹別家畜診療所改良課 斉藤隆允)

経験年数	経産牛・未経産牛区分	重要度1	重要度2	重要度3
1〜5年	経産牛	乗駕許容	子宮	卵胞
	未経産牛	乗駕許容	卵胞	卵胞 子宮 畜主希望
6〜10年	経産牛	乗駕許容	子宮	畜主希望
	未経産牛	乗駕許容	卵胞	畜主希望
11〜20年	経産牛	乗駕許容	卵胞	畜主希望
	未経産牛	卵胞	卵胞	乗駕許容 子宮 畜主希望
21年〜	経産牛	乗駕許容	子宮	畜主希望
	未経産牛	乗駕許容	子宮	卵胞 畜主希望

図3：性選別精液利用判断時の重要項目